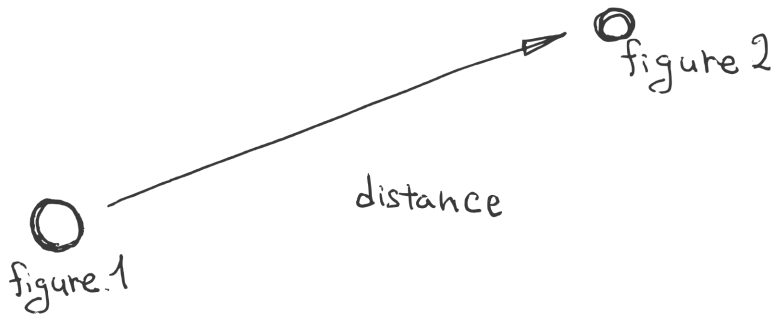


o d a i

magazine



トリミング

栗原 論





ロの中で鋭く広がって

その形は雪の結晶の

ようでした。

薄い黄色。

しんしんと。

おだいにまつわるエトセトラ

ブリュッケへ初めて行ったとき、橋の手前で脚が止まった。見たことがある風景だったからだ。

王子に住んでいたころ、よく河岸を歩き、写真を撮っていた。隅田川には下を抜けられない橋が多く、先へ進むためには道を渡らなければならない。小台橋もそんな橋だった。そのときの記憶なのだろう。

「ということは…」と左を向いたが、観覧車は見えなかった。

畔柳寿宏

小台が実在の街であるとする説は、昔から後を絶たない。

小台について語るとき、トデンアラカワセンの存在は決して無視できない。

ある学者は言う。「現代の日本に小台を蘇らせることができれば、あらゆる問題は解決される。このとき、トデンアラカワセンの真の力が世界を変えてしまうだろう。」

森脇ひとみ

2つの大きな川の近くで、大きな橋もある。普段こみこみしたところに住んでいるせいかな、隙間が沢山あり、開放感と同時に空恐ろしさを感じる。

橋本悠

大きな白い橋からみた川は土色で、川幅は広く、穏やかに流れています。川がきれいだと感じたので、自分は大人になったのかなって思いました。モルダウ川の美しさは、大人にならないとわからないんだって、こどものときに思っていたからです。

會田純那

小台駅からブリュッケに向かうため橋を渡っていると、「帰り道」と感じる事がある。

山崎隆史

いくつかの小台から小台を観察するためのこころみです

甥っ子とわたし

杉浦俊介

彼との付き合いはかれこれ3年半くらいになる。どこからともなく現れ、泣かないように寝付かせるために工夫してみたりというのも懐かしいあの頃というものになってしまった。

最近の彼は少し言葉を話せるようになってきているのだが、もう少し何をどう考えて行動しているのかが知りたいと思ひ、面倒くさいおじは何かしらにつけて理由を問うということをしている。そうするとすぐ彼は戸惑って口を閉ざしてしまう。

どうやら私が覗いてみたいそこに理由はないようだ。彼が何かをやりたいと思ったり、嘘をついたりすることに理由はなく、そうしたいからそうするということらしい。ただ単純にイノセントな存在としてそこに居座っているようだ。

こどもは厄介な存在だなと思った。

彼が大人になる頃に私はどうゆう大人になっているのだろう。

まだ生きているだろうか。彼のいとことなる人物は存在しているだろうか。彼のように何かしたいことを見つけているだろうか。

嫌われないうちはもうしばらく彼と遊んで色々と学びたい。

好き

好きというのは

気持ちなんでしょうか

勝手に頭に入り込んで

疲れているのも忘れてしまう

それは嬉しいというのに

似ていませんか？

なんだかそんな気がします

だからきつと

足立区小台とはかかわりのない10月の俳句

中村安伸

秋の航一大紺円盤の中

陸の見えない大海原を航行する船の甲板上に立ち、四方をぐるりと見渡せば、海は水平線をエッジとする巨大な円盤のように見えるという。紺色の濃さは快晴の秋天を思わせる。

「円盤」という見立ては二つの視点を要請する。船上に視点を置くと、海は自分を中心とし、水平線を円周とする巨大な正円になる。しかし、人は全方位を同時に見渡すことができないので、その円を見下ろすために、宙に浮いた視点を設定する必要がある。

船上に立つ自分をもうひとりの自分が空中から見下ろすと、進みゆく船に従って円形の海が動いてゆく。自分が世界の中であるかのような陶酔感をともなう映像である。

さて、この句の末尾の「中」であるが、私は「上」としたほうが適切ではないかと思ったことがあった。そのほうが円「盤」という表現への対応としてふさわしいと感じたからである。しかし「上」としたのでは、円盤（海）と船（自分）との位置関係が固定的となり、海を従えて船が進んでいくという動的な感覚が乏しくなってしまう。音韻としても「ウエ」

と拡散するより、「ナカ」と締めるほうが収まりよく感じる。

音韻といえば、もうひとつ検討すべきことがある。俳句ではある程度の字余りは許容されるのが一般的だが、五七五の中の七音が八音になる「中八」の字あまりは忌避される傾向にある。実際に中八の句は、声に出して読むと垢抜けのない印象となることが多い。そのなかで掲句は、中八でありながら失敗していない句の例として挙げられることがある。

「ん」と表記される撥音は通常一音として数えられるため、この句も「中八」であるとされるのだが、実際に声に出してみると「コン、エン、バン」と続く撥音を含むフレーズは、少し短めに発音されることがわかるだろう。「コン」と「エン」は、あわせて三音くらいの長さで「バン」は二音であろうか。したがって、実質的に通常の五七五とほぼ同じリズムで体感できるのであり、撥音がリズムの悪さを吸収するバッファとして機能しているのだと思う。

※作者は中村草田男(1901年7月24日～1983年8月5日)

一行文学の世界

長谷川至洋

これは新しい試みです。

俳句でも歌でも詩でもない、一行の言葉。

それはとある架空の長編小説の中の一行だとします。

たった一行が余韻を残し、波となり、あらぬ方へとつ

かの間イメージを広げたら素敵なことです。

今日の一行

「ぼんやり曇った空はなぜだか昔から、僕を懐かしくてさみしいけどほっとするような、不思議なうずくまりの気持ちにさせる。」

128段の階段のうた 10段目

つるつるの道を、足下だけ見て歩く。うなだれているようだがそうではない。僕は足下だけに注意を払っている。転ばないように。集中して歩くというのはいいものだ。僕はいま歩くことだけを考えて歩いているんだなあと思った。息を吐いてひさしぶりに上を見る。青い空があった。

店のあれこれ

すっかり涼しくなって秋らしい今日このごろ、店も季節のように少しずつ変化しています。生き物のようです。

最近が高円寺のコクテイル書房で月に一度やらせて貰っているコーヒー散歩が楽しいので、店でも月一くらいで何か勉強会みたいなことをやれないかと画策しています。やるとなると多分土曜日の10時からとかになるかと思っています。

他にも営業時間外での店の使い方というのを少し考えています。以前日曜日に何度かやってみたことですが、営業終了後に人が集まれる日も作れたらと思います。音楽を持ち寄りたり、食べ物を持ちよったりして話せる場所にできたらと思います。コーヒー勉強会よりも先に、11月3日、文化の日に「しゃべっチャイナ」という会話を目的とした中国語講座が始まります。この号が発行されるころには終わっているかもしれませんが、その後は毎月どこかの土曜日にできればと思っています。

あと、外でコーヒー出す機会を増やしたいです。店の連絡や催しのお知らせなどHPでしっかり確認できます。

<http://odabrnucke.org>

「des objets sonores et sans nationalités」 音の鳴る、国籍のないオブジェ



ナカムラアヤ 金属のオブジェ「アナムサリー」



Aya Nakamura créations métalliques

11月23日から12月

4日まで、ナカムラアヤさんの金属作品の展示があります。

会期中には橋のピアノや語るもあります。が、なんとオープンニングとクロージングに投げ銭のライブがあります！

作品もライブも気になりますね。是非遊びにいらしてください。

* オープニングライブ
日程 / 11月23日(祝)
時間 / 17時から

出演 / すずえり・Alessio Silvestrin

* クロージングライブ
日程 / 12月4日(日)
時間 / 15時から

出演 / ママクリオ

<http://www.office.jp/aya/>
ナカムラアヤさんの金属への想いは隣のページに←

金属という素材が好きなのだと思う
特に、ぴかぴかしたあたらしいものよりも
年月が経って鈍いひかりをはなつもの
角が取れて丸くなったもの

アンティークを取り扱うお店の片隅に
ひっそりと存在するオブジェ
ほこりをかぶった動物の置物
母の小箱から発掘されたすこし古びた銀のネックレス
野ざらしになって錆びた道具たち
たくさんの人に触れられてまるくやわらかくなった
階段の手すりやドアノブ

どこの国からやってきたのかわからないもの
誰の手からわたってきたかわからないもの
現代に生きるわたしたちの手元に届くまでに
いったいどんな物語があったのか、空想するだけでも楽しい
錆びたり割れたり劣化もするけれど
比較的丈夫で、ひんやりと冷たいところも好きかもしれない
すぐに壊れないからこそ安心してしまふところも

熱を加えればやわらかくなることも最初はとても
新鮮なおどろきだった
炎に包まれて色味が変化するのも毎回
その不思議な色の美しさに見とれてしまう

叩いてみれば深い響きが聴こえるところも
音色の豊かさにも惹きつけられている
わたしの作る役に立たないオブジェたちが
これから誰かの手に渡り、年月を経てどこかでも
それぞれに歴史を思い描きながら
手に取ってくれるひとがいたりするのだろうか

今も自分の作ったものを身につけてくれる
ひとが存在するのはなによりうれしいことであり
まだまだ作りたいあたらしいかたちもふいに頭に浮かんでくる
金属は想像するより意外としなやかでやわらかい
ひそかなたくらみとあたらしい実験
ちいさな発見やおどろきをいくつも重ねて
今日も制作している

追想の儀式

斉藤友秋

小学生の頃、幼馴染らと近所のゴミ置き場から拾ってきた空の四合徳利に、同じくゴミ置き場から持ち出した、使い切らずに捨てられていた数種類の調味料を調合した液体を流し込み、家の近くの空き地の植え込みの脇に穴を掘り埋めた。その徳利には、皆の名前から一文字を拾い、それらを出鱈目に、しかし語呂の良い響きに組立てられた僕らの神さまの名前が書き込まれた。そして、知らぬ間に儀式は始まっていた。

橋のピアノ #9

日程／11月25日 金曜日
出演／儀式、斉藤友秋
時間／開場 19時 開演 19時30分
料金／2000円＋1ドリンク



おもかげたゆたう日

この夏、偶然見たアニメーション作品。作家の大寶ひとみさんをお招きして店で「おもかげたゆた」を上映して頂きます。更に作品の制作に関するようなことを、ゲストに同じくアニメーション作家の清家美佳さんと山中澤さんをお招きしてのトークもあり、作品に関係したのもも振る舞われます。

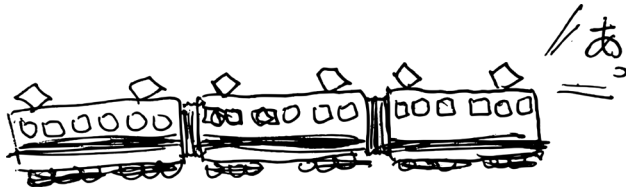
また、「おもかげたゆた」上映に向けて、作中で使われている原画などの展示も企画しているので、お楽しみに。

おもかげたゆたう日

日程／12月23日 祝日
作家／大寶ひとみ・清家美佳・山中澤
時間／17時より
料金／無料

それゆけ！なんでも計算隊 VOL.4

やあ。趣味は計算のジャック・マキだよ。この間、友人と電車に乗っていた時のこと。こうしてたくさんの人間が複雑に移動する中で、この同じ車両にたまたま知り合いが乗っているというのはどのくらいの確率なんかね、という話になったんだ。これはなかなか手強い計算になりそうだけど、ちよつと計算してみたくなる問題だよ。たとえば私に知り合いが10人いたとしよう。この場合、私があるなかの1人と同じ車両に乗り込む確率を10倍したものが求める確率だ。これはもうはつきりいって天文学的な確率だよ。私は匙を投げたよ。だれか計算して教えておくれよ。だけど実際にこういう現象は起こり得るんだ。まったく信じられないじゃないか。確率が確となるその珍しさを僕はいつも忘れずにいたいと思っているよ。



Topics

- ・こち亀が終わりました。字が多くて読むのに時間のかかる漫画という認識でした。お疲れ様です。
- ・北朝鮮の無慈悲さはますます加速しています。地震や台風などわたしたちの生活を脅かすものは沢山あるようです。
- ・昼間に風呂に入り、湯船に浸かっていたらその室の小さな窓から空が見えるということに気が付きました。普段は夜に入るので気づきませんでした。湯に浸かり青空を眺めるといっちはちよつとした贅沢のようです。
- ・お客さんに王子に楽しそうな古本屋ができてたよ、と言われて行ってみたら楽しい古本屋でした。その名は「コ本や」です。近所に楽しいところがあると楽しいです。
- ・近頃は映画館に行く時間が見つかりませんが、ボルダリングの仲間が増えました。

小台マガジン vol.14

2016年 11月
編集・印刷 ブリュッケ

BRÜCKE

odaibrucke.org